

民進党は2日、両院懇談会を党本部で開き、苦戦に終わった参院選を総括した。出席者からは岡田克也代表が主導した共産党などの野党共闘に賛否両論があつた。代表選の日程を9月2日告示、15日投票とすることも正式に決まり、党内の各グループが結束を確認するなど動きも活発になってきた。

「野党の協力体制のもとで参院選を戦った。めざすところと比べれば不十分だが私としてはある程度の結果は残せた」。岡田氏は会議の冒頭でこう振り返り、共闘の意義

両院懇談会で参院選総括

民進、共闘路線に賛否



民進党の会合であいさつする岡田代表（2日、民進党本部）

を訴えた。自身が掲げた「一定の成果をあげたが、与党の改選過半数の阻止などを許したことなどの責任を負う形で、9月の任期満了に伴って退任を決めている。

会合で配った総括の素案は野党共闘について「見方もある」と指摘。次期衆院選に向けて「（共闘の）基本的枠組みは維持しつつ、さらに検討する必要がある」とした。出席した新人の当選議員

が分析すべきだ」と疑問視する意見もあった。

共闘のあり方は代表選の焦点の一つだ。細野豪志元環境相は2日、記者団に「共産党とはある程度一線を画すことでも重要ではないか」と語った。

長妻昭代表代行も同代表選については「私自身が出るということだけにこだわることなく、他の選択肢も真剣に考えた」と述べ、保守系での候補一本化作業に含みを

から「野党共闘があったから自分はここにいられる」と評価の声があがる一方、「本当にこれで良いのかよく考える必要がある。効果をしっかりと分析すべきだ」と疑問視する意見もあった。

前原氏は記者団に出馬の可能性について「全く不可能だ。仲間と話をしながら決める」と述べた。

長妻昭代表代行も同日、赤松広隆前衆院副議長と会談した。昨年1月の前回代表選に立候補し、入ったほか、長島氏も出馬の意欲を示している。

同日夜には共闘に慎重な前原誠司元外相や長島昭久元首相補佐官が束ねるグループもそれぞれ会合を開催。これに先立ち、